

図書館だより

第7（図書委員さんのおすすめ本①）号・2022年1月21日発行

「あけましておめでとうございます」というには遅すぎる発行になってしまい反省しております。みんなは嬉しい玉などももらいましたか？

さて恒例（とはいえ2年目ですけど？）図書委員さんのおすすめ本、紹介していきます。委員さんたちの本への思い、受け止めて♪



『かか』宇佐見りん：「推し、燃ゆ」で芥川賞を取った宇佐見りんが書いた本で、“思春期”という時期をリアルに描写する独特な描き方が特徴。思春期の高校生にこそ読んでほしいと思った。（MK）

『夢い羊たちの祝宴』米澤穂信：主人公が自ら行動を起こしていくミステリーの形式なので読んでいて飽きがこない。特に何も無さそうな日常シーンからの伏線回収が清々しい。短編集なので本が嫌いな人でも読み易い。（AM）



『かがみの孤城』辻村深月：細かな所にたくさん伏線があって、そこが回収されたときに、自分も登場人物も一気に物語の核心に触れる点がとても楽しかった。（RM）

『罪の声』塩田武士：約30年前に起きた未解決事件に子供の頃巻き込まれてしまったテーラーの男と、その事件を追う新聞記者の物語です。フィクションなのですが、リアリティが高く作品の中にのめり込んでしまうようで、読み進めるのがとても楽しいです。2020年に映画化もされた作品なので、是非読んでみてほしいです。（AA）



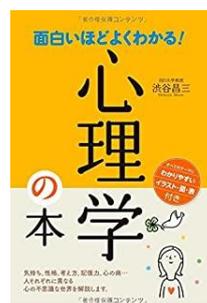
『大正浪漫』NATUMI：YOASOBIの「大正浪漫」という曲の原作小説。現代を生きる男の子と大正時代を生きた女の子が文通を通して恋をする話。逢いたくても逢えないもどかしさにきっと感動する！！（KO）

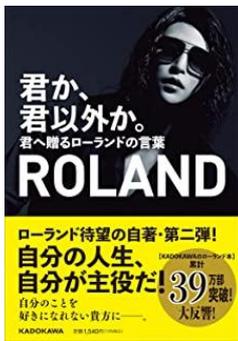
『カラフル』森絵都：価値観を少し変えることができるかもしれないから。（山田太郎）



『国境なき医師団を見に行く』いとうせいこう：世界中で病気やケガによって苦しむ人を救う“国境なき医師団”の行う活動や生活を読んで、異文化や医療の現場を学べるから。（SK）

『面白いほどよく分かる！心理学の本』渋谷昌三：しぐさや行動から相手の本心を推測する方法や、ストレスを軽くするための対処法を学ぶことができます。（SY）





『君か、君以外か。』ROLAND：自信が持てない人や自己肯定が低い人には響くと思います。(P.N.)

『Fate／strangeFake』成田良悟：一人一人の過去が作り込まれているためとても響く話しだからです。(KI)



『ゲーム理論入門の入門』鎌田雄一郎：ゲーム理論という、ある種の意味決定を行った結果、何が起きるかを予測する理論である。主に経済学に興味がある人に読んで欲しい。ゲーム理論について簡潔に書かれており、知識がなくても理解できる一冊です。本のページも少ないので短期間で読み終わられると思います。(藤川球児)



『日本の思想』丸山真男：現代文教科書の『「である」ことと「する」こと』の収録された本です。教科書で読んで興味がでたため、読んでみてほしいです。(TS)



『ようこそ実力至上主義の教室へ』衣笠彰梧：自分だったらこの状況をどうするか等と自分にあてはめて読むことができる作品だから。(あんころ)



『東京すみっこごはん』成田名璃子：様々な理由がある人々が一軒家に集まりご飯を一緒に食べることで、楽しく生活を送ることができるようになるという物語で、とても心があたたまると話だから。(SN)



『生まれ変わっても自分でいたいって思うために生きている』とうあ：とうあさんは元々YouTubeで応援していて、とうあさんの考え方がとても前向きで好きでした。最近本を出して、私が好きなたうあさんの考え方を他の人にも見てほしくておススメにしました。とても前向きで元気になれる本なので、ぜひよんで欲しいです。(ひなどん)



『大きな木』シルヴァスタイン 訳・村上春樹：シンプルでとてもよみやすくとてもおもしろいから (村上春樹)



『刀語』西尾維新：西尾先生による、独特な言い回しや、言葉のかけあいがとてもクセになり、一度目を通せばハマること間違いなし。(SN)



図書委員のおすすめ本、前半はこれまで。

図書館からのお知らせ

・資料を借りたまま忘れていた人はいませんか？いちばん困ってしまうのは黙ってもとあった棚に戻す人。怒りませんので、カウンターへの返却ボックスに入れてください。特に3年生確認よろしくお願ひします。